

## 会議録

会議の名称	令和3年度第1回加東市総合教育会議
開催日時	令和3年7月8日（木）午前10時から午前11時40分まで
開催場所	社公民館 2階 研修室
<p>議長の氏名（市長 安田正義）</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>&lt;出席委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市長 安田正義</li> <li>・教育長 藤本謙造</li> <li>・教育長職務代理者 田中寿一</li> <li>・教育委員 藤本洋二、藤原哲史、後藤純子</li> </ul> <p>&lt;欠席委員&gt;</p> <p>なし</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>なし</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副市長 岩根正</li> <li>・子ども未来部長 広西英二</li> <li>・子ども未来部参事 神田英昭</li> <li>・学校給食センター所長 大久保めぐみ</li> <li>・子ども教育課長 井澤彰子</li> <li>・教育総務課副課長 徳岡あけみ</li> <li>・まちづくり政策部長 小林勝成</li> <li>・企画政策課副課長 高田篤</li> <li>・企画政策課主事 横山寛之</li> <li>・教育振興部長 田中孝明</li> <li>・子ども未来部参事兼学校教育課長 後藤浩美</li> <li>・教育総務課長 菅野勇一</li> <li>・中央図書館長 田中美紀子</li> <li>・小中一貫教育推進室長 柴崎俊之</li> <li>・生涯学習課副課長 三和田剛浩</li> <li>・企画政策課長 下岡正裕</li> <li>・企画政策課係長 村上計太</li> </ul>	
<p>1 議題</p> <p>(1) 第2期加東市教育大綱における令和3年度の取組内容について…資料1</p> <p>(2) 令和2年度加東市市民意識調査結果について…資料2</p> <p>2 会議の結果及び経過</p> <p>⇒「令和3年度第1回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり</p>	

令和3年度第1回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

発言者	会議の結果及び経過 / 発言内容
議長	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 市長あいさつ</b></p> <p><b>3 協議</b></p> <p>(1)第2期加東市教育大綱における令和3年度の取組内容について まずは、内容について事務局から説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">事務局から資料1に基づき説明</p>
議長	<p>第2期教育大綱に基づく3つの基本方針について、今年度取り組む内容の説明がありました。ご意見はありますでしょうか。</p>
委員	<p>初めに、安全・安心を最上位に掲げて市民の安全のために尽力いただいていることに感謝します。そして、何より大切な子供の命を預かっているという観点を大切にして、日頃から多大な支援をいただいていることは学校現場も非常に心強く思っています。</p> <p>教育委員会の取組により、6月末から各学校へ訪問し、子供たちの学ぶ姿を見てきました。コロナ禍かつ蒸し暑い中ではあるものの、落ち着いた環境の中で集中し、学習に取り組んでいる姿が見られました。学校毎の課題はあると思いますが、落ち着いて学んでいる子供たちの姿が現在の加東の教育のすばらしさを表しており、心配していた東条学園の子供たちもうまく溶け込んでいるように感じましたし、学校からもそのような報告を受けています。</p> <p>話は遡りますが、4月には米田小学校の入学式に出席しました。男女1名ずつの2名の入学式で、ほのぼのとした温かい雰囲気でした。三草小学校でも女子が2名だけという学年がありましたが、これも加東の教育の現状の一面です。少人数という限られた環境の中で、非常に大切に育まれると思いますが、どれだけ子供たちに教育の保障ができるのかということに改めて感じました。少子化、高度情報化などの社会の環境の変化に対応した教育の相談、小中一貫教育の推進をより力強く進めていかなければならないと強く感じています。</p> <p>また、鴨川保育園にも行きましたが、災害に関してこんな臭いや音がしたら避難というようなものが保育室の中に掲示してありました。昨日の激しい雨の様子を見たこともあり、非常に怖さも感じます。改めて、安全な施設、学校をつくっていく必要があると感じました。</p> <p>現在、東条学園の校舎の建設も進んでいます。新たに大きな学校が造られているというところに教育にかけるこの加東市の本気度が非常に表れていると、住民の方、また教育関係者も思っています。</p> <p>加えて、2点お話をさせていただきます。</p> <p>今年度から東条学園が始まりましたが、小・中学校一緒だからこそ実現できることに挑戦いただきたいと思います。例えば、1年生から9年生、地域の方々を巻き込んだ体験活動に取り組み、自分や友達、異学年の仲間のよさを知ることができ、また下級生は大きくなったらこういうお兄ちゃん、お姉ちゃんになりたいといった、将来の自分への憧れを持つことができるような環境を整えてほしいと思います。</p> <p>また、上級生が下級生の世話をするだけではなく、下級生が上級生に挑むような、自分の持っている力をさらに高い力の中で試す場面も見てみたいと思ってい</p>

	<p>ます。現在、大人顔負けの小学生がいろんな分野で出ています。さらに高みを目指していくようなそんな体験も必要となっていくのではないかと考えています。英語学習や体育などにおいても、学年のみにとらわれずに、いろんな学年の中で活動できるような企画もできるのではないかと思います。</p> <p>もう一点、かとう学についてですが、文科省へ申請すれば授業時数を1教科あたり1割増やすことができるという話もあります。このふるさと加東を基盤にした持続可能な社会づくりを、授業時数も柔軟に活用しながら、東条学園や加東ならではのかとう学というのをつくっていきたいと思いました。</p>
議長	<p>ありがとうございます。今の発言に対して何か意見はありますか。</p>
教育長	<p>小・中学校の子供たちの学びが落ち着いた環境で進められていることについて、私も同意見です。ただ、課題がないというわけではなく、不登校をはじめとする、学校になじめない子供がいることは気になります。そのような課題についても、各学校はいろんな専門的なところとつながりながら進めているところがございますが、すぐに解決とはならない現状もあります。</p> <p>それから、東条学園についてですが、東条西小学校と東条東小学校の子供たちが事前に交流し、新たな環境に溶け込めるよう進めておりました。その結果として、私も視察に参加しましたが、旧東条西・旧東条東小学校といった区分はなかったと感じています。保護者の方ともお話をしたことがあるのですが、「うちの子供もそんなこと一切言わない、一つの学級、一つの友達、集団として学び、触れ合っています。」と聞きまして、非常によかったと思っています。ただし、この活動も旧小学校あるいは中学校からの小中連携、小中連携を含めていろんな計画を立てて実施をしてくれていたおかげで今の姿があると思っていますので、社・滝野地域についても同じような形で子供たちにとってよかったと言えるようにスタートしたいと思っています。</p> <p>それから、かとう学の話について、1割の授業数をプラスして特別な教科として実施することも可能ですが、加東の人や物や事に触れることによって加東のよさを感じ取ってもらうことを各教科で横断的に進めたいと思っています。思いは同じだと思っていますので、かとう学の活用について、教員と一緒に検証しながら努めてまいりたいと思っています。</p>
議長	<p>小中一貫教育とは何かという思いをお持ちの方もまだ多くいらっしゃると思います。したがって、小中一貫校の整備以前と何も変わらないままで終わるようではいけないと思っています。小中一貫校だからこんなことができたというところが一つの大きな成果になると思っています。</p> <p>それから、東条学園において、子供たちが旧校の区分に関係なく過ごせていることについては非常に大事な部分だと思っています。</p> <p>かとう学については、非常に素晴らしいものが完成しました。この中に東条川疏水のことが書かれてございます。この地域にとって大きな財産だと思っており、現在、農政部門で東条川における土地改良事業の実施に向けて動いています。9月には現場事務所も開設されていよいよ動き始めるという状況です。また、このかとう学には、2016年の住みよさランキングの結果が掲載されています。このようなランキングは指標を少し変えれば順位あるいは偏差値が上下するものなので、学校現場では別の様々なランキングも参考にしながら子供にお伝えいただきたいと思っています。</p> <p>引き続き、他のご意見はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>学校訪問により、先日から、加東市内の安全・安心な環境の下で学ぶ子供たち</p>

	<p>の姿を見えています。その中で、保育所やこども園において、各家庭の就労形態が多様化していく中で、早朝保育とか延長保育、休日保育にかける時間が増え、子供たちも家庭で過ごす時間よりも保育施設で過ごす時間のほうが長くなってきていると感じました。そうすると各施設において保育面だけでなく、幼児期における教育面も非常に重要になるため、キャリアアップや人権教育などの指導者養成セミナーなど、保育士の皆様の指導をする機会の確保がとても重要ではないかと思いました。</p> <p>加えて、保育施設を利用されていない市内の保護者さんたちの意見を拾い上げる場所っていうのをもっと分かりやすく周知できたらと思っています。</p> <p>かとう学が完成しましたが、本当に分かりやすく作られており、観察するとか質問する、記録するといった学び方コーナーもあって、よいものができたと感じています。</p>
議長	<p>今の発言に対して、意見はありますか。</p>
担当職員	<p>先ほどのご意見に関連する内容ですが、現在、こども教育課では東条、社、滝野地域の各児童館にて、保育所に入る前のお子様を持つ保護者の相談事や幼児教育についてのご相談といったところにも取り組んでいますので、ここでお伝えさせていただきます。</p>
議長	<p>保育施設を利用していない方の意見を聞く機会が必要だという話がありました。加東市には様々な施設がありますが、保育施設のみに限らず、その他の様々な施設についても共通して言えることだと思います。利用している方の意見を聞くのは比較的簡単にできることなのですが、利用されない方の意見を聞く機会というのは今まであまりありませんでした。どうすればそういう意見を集約できるのか、その方法については検討していきたいと考えています。</p> <p>他にご意見はありませんか。</p>
委員	<p>この第2期教育大綱と第3次教育振興基本計画は整合が取れており、とてもよく分かりやすいと感じています。</p> <p>現在実施している学校訪問については、昨年度コロナウイルスの関係でできなかったこともあり、今年度は接触時間を短くし、午前中に限って回らせていただいております。中学校では本当に真面目にすごく勉強に打ち込んでいるという印象を強く受けました。小学校も明るいし、しっかり声も上げてよく勉強しています。こども園や保育所につきましても、遊びの中での教育を大事にされているようでとても元気がありました。全体的に大変落ち着いて授業がされており、状況はよかったなと思いました。</p> <p>それから、トライやる・ウィーク等の校外学習について、昨年度はコロナウイルスの関係でほとんど実施ができませんでしたが、今年度は規模を検討した上で実施の方向で考えていると聞いております。ただ、コロナウイルスが落ち着いているという状況にはありませんので、キャリア教育の一環として別の取組を検討する必要がある出てくる可能性もあるのではないかと考えています。</p>
議長	<p>教育委員の皆様には、数多く学校訪問をしていただいておりますが、やはり現場を見ていただくというのが一番よく分かるのではないかと考えています。ご苦勞をおかけしますが、今後も機会を確保して現場に出向いていただきたいと思います。</p> <p>それから、トライやる・ウィークについては、子供たちにとって大きな経験になっていると思います。兵庫県、加東市、そして多くの事業所の皆さんにもご協</p>

	<p>力をいただいてこの事業が成り立っており、学校や教育委員会のみならず、地域の皆様、様々な事業所が一緒になって子供を育てていただいているという思いでいます。この件については、またしっかりと教育委員会で取組を進めていただきたいと思います。</p> <p>委員 加東の教育が順調に進んでいると捉えています。これは市長部局と教育委員会が一体になって新しい様々な教育に向かって取り組んでいる成果の一つであると理解しています。</p> <p>学校訪問の中で、東条の保育所に行って説明を聞きましたが、家族的な雰囲気の中で教育・保育が進んでいると説明がありました。第3次教育振興基本計画の目指す人間像の中に「加東を愛し、共に支え合いながら、未来を切り拓いていく人」というものがございしますが、私たちが育てようとしている子供たちは、そういう共生社会に生きる子供であり、一つの大事な視点だと思っています。様々な違いを乗り越えて生きていける子供を育てるには、一定数の人数と多様性が必要だと理解しています。現在、小中一貫教育を進めていますが、家族的な雰囲気の中での教育、それから多様性を求めた大きなニーズの中での教育、どちらも大切だという考えを持って進んでいかないといけないと改めて感じました。</p> <p>かとう学については、本当にいい本が出来上がったと思いますが、これをどう活用して成果を上げていくかということがこれからの大きな課題ではないかと思っています。関係人口という言葉をよく耳にしますが、こんな行事があるときに加東市へ帰ろうとか、こんなイベントのときには加東市へ毎年帰るんだといった関係人口が、この副読本で子供たちが学んでいく中で増えていくことを楽しみにしているところです。</p> <p>最後に、7月号の広報かとうに100歳を超える人が33名になったという記事がありました。今の子供たちが大きくなった頃には2人に1人が100歳というような時代がやってきます。そのときは、学習機会という点でも、現在のニーズとは全く異なったものが必要になってくると思います。アンケートの実施やそこから考えられる新たな居場所づくりは、これからますます大事な課題になってくると思いますので、力を入れて進めていただきたいと思います。</p>
議長	<p>イベントの件、確かにそうあってほしいと思います。これはまちづくり政策部の課題だと思いますが、ぜひそんな企画をしてもらえたらと思います。</p> <p>共生社会の部分についても、非常に重要な内容だと思います。意識して他者の役に立とうという行動ができるのは人間の一番いいところではないかなと思います。そして、自分が役に立つこと、それを喜びとすることも非常に大事な視点だと思っています。全員がそんな意識を持つというのは難しいかもしれませんが、誰かの役に立つという、そういう思いを大事にしていきたいと思っています。</p>
事務局	<p>まちづくりの観点からいきますと、関係人口というのは交流人口と同じく大事なことでございます。まちづくり政策部として取り組んでいるのはまちの拠点づくりコンソーシアムを中心に子供たちに思い出をつくっていただこうというもので、例えば東条川疏水に関連したゴムボートのイベントや、親子で何かをつくるといったイベントもしています。一方で、あまり大きなイベントを行っていないのも事実でございます。今後、コンソーシアムと共同で検討し、進めていきたいと思っています。</p> <p>あと、100歳以上の方のお話がありましたが、やはり市民のニーズは日々変わっていていると思います。そういう中で、この後説明する市民意識調査をはじめとしたアンケートを継続的に取りながら、どういったものを取り上げていくのか、市民の方々が何を望んでいらっしゃるのかということを的確に把握してい</p>

議長	<p>たいと考えています。</p> <p>そのほか、ご意見よろしいですか。      それでは、昨年実施をしました市民意識調査について、教育分野の設問に絞った結果を事務局から説明し、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">事務局から資料2に基づき説明</p>
議長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見等ありますでしょうか。</p>
委員	<p>小中一貫教育の推進の重要性・満足度の偏差値の低さに心を痛めています。これは全体的な数値であると思うのですが、世代別の数字というのはわかるのでしょうか。</p>
事務局	<p>お話しいただいたとおり、こちらは各年代をまとめた全体の数値です。各世代の回答割合は公表していませんが、例えば、自由記述において小中一貫教育について年代的にも関係がないと回答されたご高齢の方々が、重要性を低く回答されているといった部分がありました。そのような回答の影響を受けたところもあると考えてございます。</p>
委員	<p>全体的な偏差値が上がっていくのも大切だと思うのですが、解決に向けてのアプローチは一律で考えることができるものではないと思います。関わりのある世代の意識が非常に低い結果だとすれば、それはゆゆしき問題であると思いますし、世代別の結果からアプローチの仕方を考えていく必要があると思います。満足度は図書館が一番高く、インクルーシブ教育などが低いといった結果がありますので、顕著にかかわりが少ない取組が重要度・満足度が低くなっているといった分析も必要だと思います。いかに自分とのかかわりを感じていただけるかが重要だと思うのですが、特に小中一貫教育については肝になる部分ですから、施設のインシアチブを活かして学校に人を多く招いたり、子供の生き生きする姿を映像でお届けするなどして、結果を改善できるように努めたいと思います。</p> <p>それから、生涯学習の推進についてですが、今の時代はネットを使って必要な情報が入手できることで自主学習が容易になっています。その中で講座を開くとすると、的確なニーズや時間の問題、わざわざ足を運んで学習しようと思ってもらえるのかなど、様々な問題があると思います。市の講座となれば、例えば、一元的な解決が難しい子育てや夫婦間の相談など、相談体制の充実ということも考えていく必要があります。足を運ぶとそれに応えてもらえると思ってもらえるような受皿をつくる取組も必要だと思います。</p> <p>また、私はスポーツ少年団に30年ぐらい関わっているのですが、維持して運営していくというのは難しいです。練習内容の工夫とか、目標の設定など色々取り組んでいるところですが、続けていくためには役割を持たせるということも重要です。広報かとうにも、女性のリーダー育成に係る話が出ていましたが、リーダー育成には、組織を自分たちで運営して、その中でリーダーが育まれていくといった仕組みづくりがこれからは必要となるのではないかと思います。</p> <p>それから、100歳を超える方々の話がありましたが、加東市もニュースポーツの取組を進め、加東といえばこのスポーツ、といった各世代みんなで親しんでいるというものがあれば、そこからいろんなことに広がることも可能だと思います。</p> <p>最後ですが、これから学校施設の整備等も進んでいきます。その中で誰もが相</p>

	<p>談に行けるような女性センターであるとか、青少年センターであるとか、様々な悩みを抱えた人たちが行けるようなそういう受皿となる施設ができていけばいいと思います。</p>
議長	<p>今のご意見の中で、例えば公民館が様々な講座を開いていますが、事前にアンケートや要望みたいなものは取っているのですか。</p>
担当職員	<p>参加された方に対して満足度調査を行っていますが、全ての事業に対して、他に何かしてほしいといった内容の調査を行っているわけではありません。したがって、第3期教育振興基本計画にも記載しておりますが、今年度は高齢者大学や成人学習講座、小学生のチャレンジスクールの参加者へアンケートを行い、参加してどうだったか、今ある講座をずっと続けていっていいのかということについてニーズを把握していきたいと考えています。</p> <p>成人学習については、時間の都合により参加が難しいというような意見がある一方で、まだまだ周知が足りないといったご意見もありますので、難しいことですが、参加されてない方のニーズも把握していきたいと考えております。</p>
議長	<p>もう一つ、いろんなサークルがあると思うのですが、そのサークルを自立させていく必要があると思っています。自分たちがやりたいことを自ら企画、運営をしていくというように仕向けていくことも公民館の大きな役目の一つだと思っています。いつまでも誰かにしてもらわなきゃできないということではなく、自分たちでやれるという、そういう団体をつくってほしいなと思いました。</p> <p>それから、市民意識調査の小中一貫教育の推進の結果については、これで落胆するのではなく、よしやるぞという方向に向いてほしい。そのためには小中一貫教育だからできるというものが大事になってくるのかなと思います。その結果、満足度がどんどんと上がるように期待をしています。</p>
教育長	<p>この調査は令和2年11月時点のものですが、それを踏まえても望ましい結果ではないと思っています。へこたれることなく頑張りたいなという思いがあります。既に関わりのある保護者層等にどうアプローチしていくかということについては考えながら実施しており、例えば、東条地域はもちろんですが、社・滝野地域についても小中一貫教育とは何かというようなことを少しでも保護者の方々等に分かっていただくため、小中一貫教育グランドデザインとして、先行している東条地域はこういうふうに進めている、目的は同じであるが自地域では特性を生かしたこんなことをやろうとしていますといったことを、各学校一緒になって作成して周知を図っています。まだ子供の姿が見えていない状態ではありますが、世帯1軒ごとに加東の教育についてお示しをしているということも含めて、できる限り色々な広報の手段を用いながら、今後も周知を図っていきたいと思います。</p>
議長	<p>教育委員会で、東条学園を紹介した学校案内リーフレットを作成いただいたかと思います。記者発表した際に、保護者に配るだけでなくもっと外に向かって発信しないのかという指摘があったと記憶していますが、その後いかがでしょうか。</p>
担当職員	<p>ホームページ等にアップし、皆さんにご覧いただけるようにしております。また、これまでも「小中一貫だより」といったものも作成して保護者や関係者に配ったり、ホームページにアップしたりして周知を図っています。今後、東条学園の校舎完成や滝野・社地域の小中一貫校開校も控えていることから、加東市の強み</p>

	<p>であるケーブルテレビなども活用して、子供たちの姿も見ていただきながら周知に努めていきたいと思っています。</p>
議長	<p>ケーブルテレビは大きなツールである一方で市内に限定された媒体であり、ホームページや別の手段で外へ向かって発信していくことも大事であると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
委員	<p>私は、加東市内だけをみれば、小中一貫教育についてよく周知いただひていると思ひています。各地域の準備委員会にもいろいろな分野から出てきていただひており、その方々は地域の皆さんのご意見を聞いて発言していただひていますから、前向きな方向に進んでいると理解しておひります。</p> <p>それと、このアンケートは4,000人へ配布したうち回収率が40%のことで、これが高いのか低いのか私もよく分からないのですが、関係する人の割合は少ないと思われるため、分析の仕方が難しいのではないかと感じました。</p> <p>また、オープンスクールなどの参加状況の調査がありましたが、これは令和2年10月から11月で調査をいただひており、コロナウイルスの影響が考えられるため、今の状況が落ち着けば数字はもう少し上がってくるのではと思ひておひります。</p>
事務局	<p>回収率については、これが必ず正しいというものではありませんが、回収率が大体3割あればその有効性が実証されるといわれています。40%はいい結果と捉えており、加東市民全体でみてもこれに近い結果になると思ひています。</p> <p>年代別の分析などについての話もありましたが、子供さんが通学する40歳の方々以外にも、70歳や80歳の方でもお孫さんが通学しているという視点もあると思ひます。今後、総合計画をつくっていく中で、分析できることは細かく分析した上で調査結果を反映させていきたいと思ひておひります。</p>
委員	<p>学校行事への参加について、今後各地域が小中一貫校に移行することで、対象者の範囲が広がってくると思ひますので、参加する機会も多少減ってくることも考えられます。授業参観や学校の音楽会などは、今でもケーブルテレビなどで見られるのですが、オンラインなども活用してリアルタイムで見られるようにすることで、学校から帰ってきた子供たちとその日のうちに行事について家庭で話し合える環境も作ることもできると思ひます。</p> <p>ボランティアについても、読み聞かせや折り紙などそういうのでもオンラインをどんどん活用すれば、参加する割合も増えてくるのかなと思ひました。</p>
担当職員	<p>小中一貫教育の推進における調査結果については、改めてこれから頑張っていかなければならないと思ひています。</p> <p>地域とともにある学校ということで今年度から東条学園では学校運営協議会がスタートしておひります。これは地域の方々の声を学校運営にも反映していこうという取組であり、地域の皆様にも積極的に学校の運営に参画していただこうという取組です。この取組が軌道に乗り始めると、子育て世帯だけではなくて幅広い世代が学校に集ひ、学校のために自分が何かできることはないかという視点でもって学校づくりに参画していただけるものと考えています。小中一貫校の設立により、地域に広がりが出るからこそ、私たちの学校は私たちの手で育てていくんだという雰囲気、学校運営協議会や地域、学校協働本部の活動を通じて醸成していきたいというふうに考えています。</p>
議長	<p>オンラインについてはいかがでしょうか。</p>



担当職員	<p>オンラインに関しましては、学校によっては、ユーチューブ等を通して、学習発表会などを保護者が見られるような手だてを取ったところもあり、昨年度コロナウイルスの関係で参加いただけなかった保護者の方々に好評であったと聞いております。カメラやマイクなどの機器的な課題もあるのですが、今回の経験を生かしながら、今後新たな発信の仕方についても考えていかないと考えております。</p>
委員	<p>小中一貫教育やインクルーシブ教育は、今まで聞いたことのない新しいものですので、特に高齢の方々にはなじみにくいことが大きな課題であると思えます。人は自分との関わりの中で関心を持つので、関わりをどう持ってもらうかということが大切ではないかと思っています。おそらく内容を理解していただくと、重要なことだと理解いただけると思っており、そのような方が参加できる、関心が持てる機会を作っていくことが大事ですので、ここからがスタートではないかなと思っています。インクルーシブ教育に関しても、いろんな触れ合う機会を持ちながら、こういう世の中になれば誰もが住みよくなることを理解していただき、成果を市民に広げていくしか仕方がないのかなというように思います。</p> <p>それから、子供見守り隊に参加する人がどんどん減っているという地域の実情があります。今までは学校に通う子供のおじいちゃん、おばあちゃんが見守り隊に参加していたのですが、子供が卒業してしまうと、関係がなくなってしまい、参加いただけないという状況になります。これも自分との関わりの中で見守り活動やボランティア活動が捉えられていくので、本当はそうではないと思うのですが、子供が減れば当然活動が減っていく、だから関心も減っていくという流れになります。地域の中に子供が見えるというのは大事なことだなと思っていますので、村だけという意識ではなくて、もっと広く加東市全体を捉えて子供の姿が見える地域というのを大切にしていけることが、見守り活動やボランティア活動への関心を高めることにつながると思います。議長が言われたように、地域にこだわらずに、いろんな活動がこれから広げられていけばと思います。</p>
議長	<p>その他、何かこの機会に発言しておきたい内容などありますかでしょうか。</p>
担当職員	<p>コロナウイルスの影響により、教育環境でも昨年からいろいろな状況が変わっております。そのような中、教育環境の充実に向けて取り組んでいますので、そういった部分もまたどこかでご紹介させていただきたいと思えます。</p> <p><b>4 その他</b></p> <p><b>5 閉会</b></p>